



▼人生の定点観測

NHKの「ドキュメント72時間」を楽しみにしている。昨年末には2023総集編があり、5時間近くぶっとおしで見ていた。この番組は、ある場所に拠点をすえ72時間にわたり、定点観測で人の出入りを見守る構成となっている。コンビニやアパート、中華料理店、美容室、ファミレス、神社など、場所はさまざまだが、そこに集う人たちのやり取りが面白い。人間交差点のような場所もあれば、一人一人が静かに時を過ごすような場所もある。今回、とくに印象的だったのは、大阪南港にある安アパートの回だった。

高度経済成長期に田舎から大阪に出て建設土木の仕事に従事した人が、高齢となり独居で暮らす賃貸アパートである。月家賃は2万円程度で、かなり古ぼけている。驚くのは、その住人たちが朝9時から1階の集会所に集まり、ビールや焼酎で酒盛りを始めることだ。アパートの大家さんはそれを静かに眺めている。ときには具材を持ち寄り、焼きそばパーティをやったりもする。もし、ここで暮らす人が体調を崩して病院へやってきましたら、私は何というだろうか。「朝から焼酎を飲むなんてとんでもない。そんなことしていると、アルコール依存で肝硬変になりますよ。」まあ医学的には正しい、でも当人が田舎と縁が切れてこのアパートが終の棲家であり、集会所はこの世で唯一の他者とのつながりであることを知ると、簡単にお酒はダメですとは言えなくなる。

▼健康の社会決定因子と社会的処方

健康の社会決定因子という概念が注目されている。人の健康は、医学が注目する生物学的な異常（疾患）だけでなく、環境、経済、貧困、失業、家族、ストレスなど、自分だけでは変えがたい要因がある。海外の研究では、社会決定因子は健康の約50%程度に影響すると報告されている。現代では、個人の自由が尊重されると引き換えに、貧困や孤立、病気すらも個人責任といわれる。

番組の高齢男性も、「この人生を選んだのは自分だからしゃあない、引き受けるわ!」と語っていた。言葉に一抹の寂しさがにじみ、集会所での酒盛

りはその寂しさを癒す大切な時間のようにも思われた。

イギリスでは社会的処方という取り組みがはじまっている。孤独が健康を害するという研究結果にもとづき、孤独問題担当大臣を作った。メンズシェッド（男たちの小屋）として高齢男性が集まり一緒に大工仕事をする、コーヒー店の一画を知らない人同士がテーブルを囲む専用と決め、誰もが自由におしゃべりができるようにする、などの施策が注目されている。そう考えると、ドキュメント72時間でのアパート集会所は住民たちの「居場所（みんなの小屋）」であり、一種の社会的処方になっている。

すべてを合理化しコスパのみを重視する社会は、どこか窮屈でゆがんでいる。世界がどんなに豊かになっても、人間の実存の問い（なぜ自分は存在しているのか）はなくならないだろう。アパートの集会所で幸せそうに冗談を交わす情景を見ながら、あらためて人間の幸福とはなにかを考えるのである。そして、お酒を飲まない温かい交わり、そういうあり方を一緒に考えるのも医療者の大事な仕事かもしれないと思うのだ。



鳥取大学医学部
地域医療学講座
教授

谷口 晋一
(たにぐち しんいち)